

# 経済・金融 フラッシュ

## 【東南アジア経済】

# ASEANの貿易統計(8月号)

～輸出は10%前後で堅調な拡大が継続

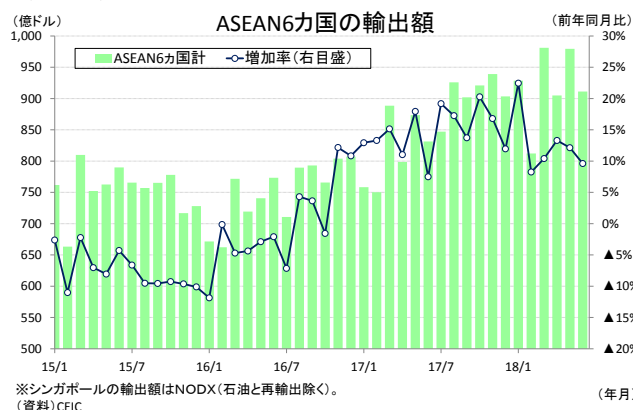
経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

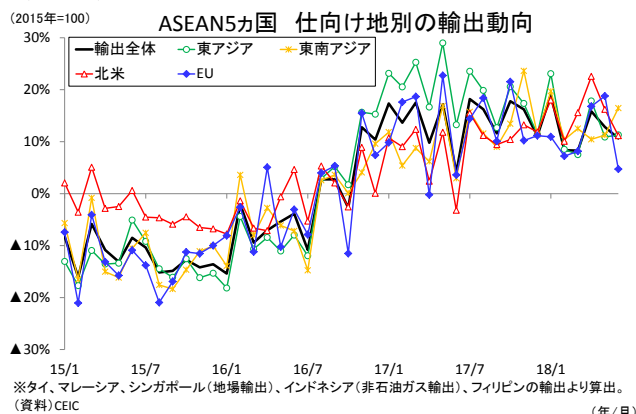
18年6月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比10.6%増（前月：同12.8%増）と低下した（図表1）。輸出はスマートフォン需要の減速などから昨年比べて増勢が鈍化しているものの、海外経済の回復や一次産品の価格上昇が全体を押し上げるなど総じて好調を維持している。もっとも米国を中心とする世界的な貿易摩擦の影響で、年後半は輸出の伸びが減速する懸念が燃える。

ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、6月はEU向け（同4.7%増）が大きく鈍化したものの、北米向け（同16.5%増）、東アジア向け（同13.2%増）、東南アジア向け（同12.7%増）がそれぞれ二桁増するなど好調だった（図表2）。

（図表1）



（図表2）

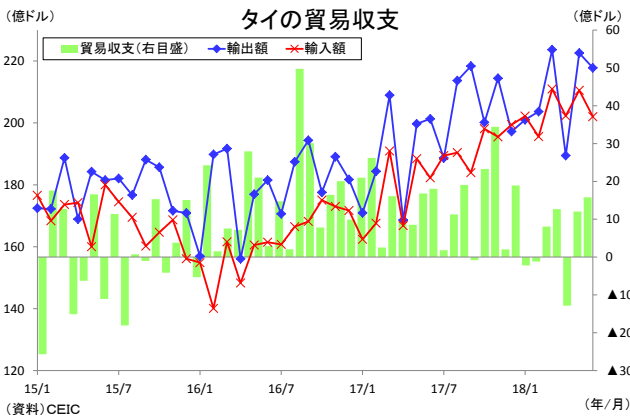


タイの18年6月の輸出額は前年同月比8.2%増（前月：同11.4%増）と低下した。輸出の基調は、海外経済の回復を背景に需要が拡大した自動車・部品や電子機器、価格が上昇した石油製品を中心に高めの伸びを維持している。一方、輸入額が前年同月比10.8%増（前月：同11.7%増）と小幅の低下に止まった結果、貿易収支は15.8億ドルの黒字となり、前月から3.7億ドル改善した（図表3）。

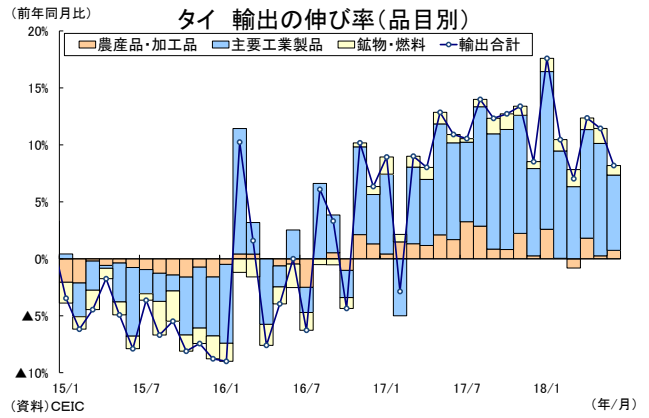
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同8.2%増（前月：同12.6%増）と低下したものの、堅調に拡大した（図表4）。工業製品の内訳を見ると、主力の電子機器（同12.9%増）と石油化学製品（同18.1%増）が好調だったほか、機械・装置（同6.3%増）や自動車・部品（同7.0%増）も堅調に増加した。また鉱業・燃料は同24.6%増（前月：同34.9%増）と、石油製品を中心に11ヵ月連続の二桁増となった。農産品・加工品は同4.5%増（前月：同1.5%増）と上昇した。ゴム製品（同23.1%増）が引き続き好調であり、コメ（同5.6%増）と加工食品（同3.9%増）

も底堅い伸びとなった。

(図表 3)



(図表 4)

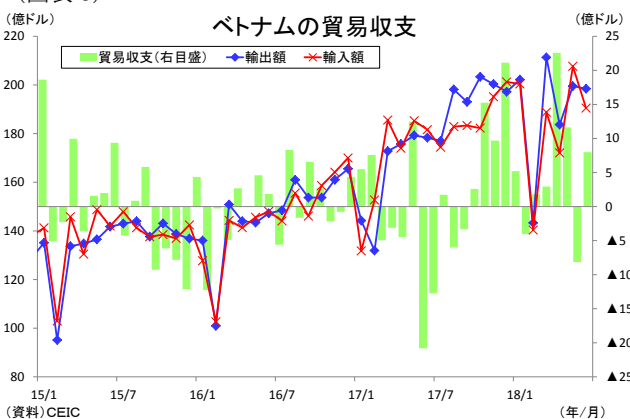


ベトナムの18年6月の輸出額は前年同月比11.3%増と、前月の同11.3%増から横ばいとなった。輸出の伸び率は昨年好調だった主力の電気・電子製品を中心に増勢が鈍化してきたものの、足元でも高めの水準を維持している。一方、輸入額は前年同月比4.9%増（前月：同12.1%増）と低下した。結果として、貿易収支は前月の8.0億ドルの黒字となり、前月から16.1億ドル改善した(図表5)。

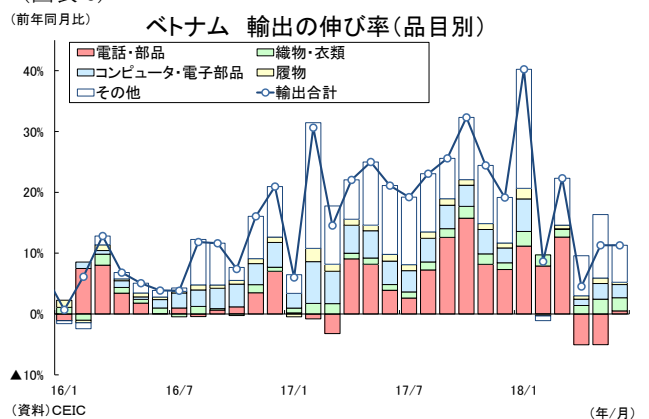
輸出を品目別に見ると、まず輸出全体の約2割を占める電話・部品が同2.9%増（前月：同21.9%減）と上昇して3カ月ぶりのプラスに転じた。またコンピュータ・電子部品は同18.5%増（前月：同23.2%増）と引き続き好調だった。アパレル関連では、織物・衣類が同16.2%増（前月：同22.8%増）と高水準を維持する一方、履物が同4.6%増（前月：同11.6%増）と増勢がやや鈍化した。農産品では、コメ（同18.9%増）と野菜（同20.0%増）が大幅に上昇した一方、ゴム（同7.0%減）やカシューナッツ（同16.6%減）、コーヒー（同2.8%増）が低調に推移するなど、品目毎のバラツキが目立つ。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同10.5%増（前月：同8.0%増）が上昇する一方、地場企業が同13.1%増（前月：同19.5%増）と低下した。

(図表 5)



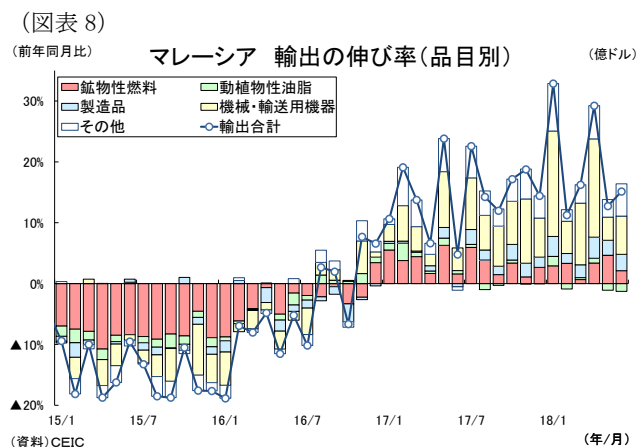
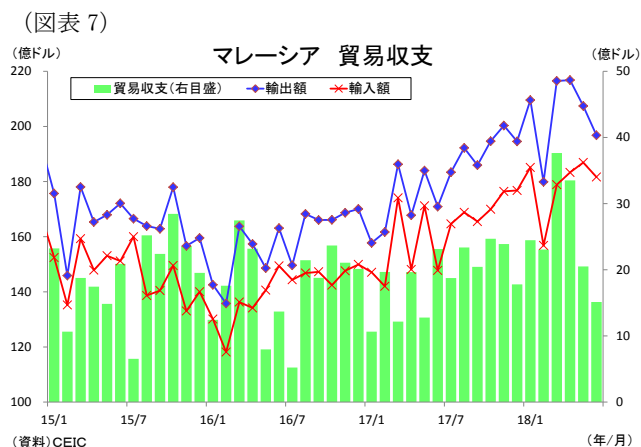
(図表 6)



マレーシアの18年6月の輸出額は前年同月比15.1%増と、前月の同12.7%増から上昇し、12ヵ月連続の二桁増となった。輸出の伸び率は、電気・電子製品や石油製品の需要拡大の影響で好調に推

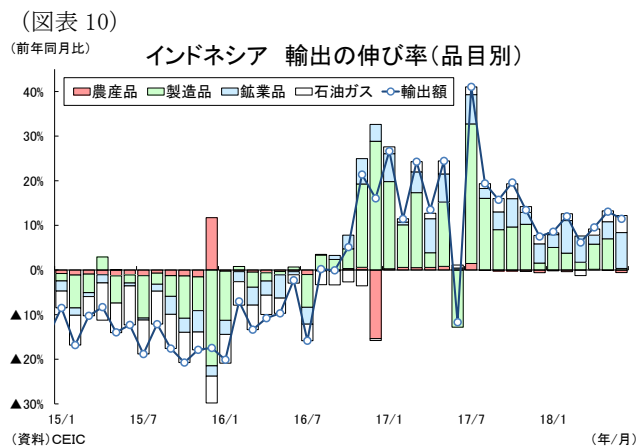
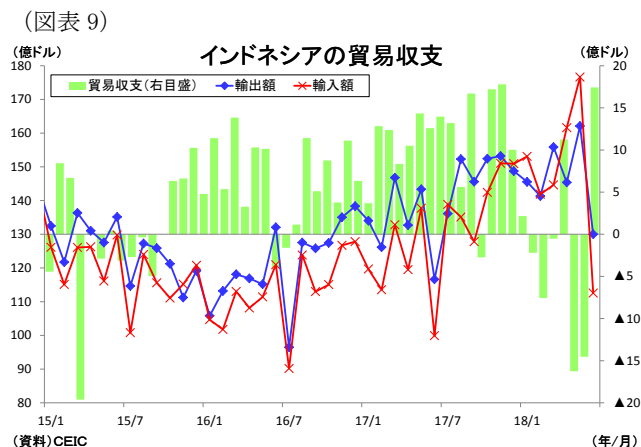
移している。一方、輸入額も前年同月比22.9%増と、前月の同9.2%増から大きく上昇した結果、貿易収支は15.1億ドルの黒字と、前月から5.4億ドル縮小した（図表7）。

輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同14.1%増（前月：同8.9%増）と上昇し、主力の電気・電子製品（同14.3%増）を中心に堅調に拡大した（図表8）。また化学製品が同27.0%増（前月：同20.9%増）と好調に推移する一方、動植物性油脂は同21.0%減（前月：同17.3%減）と2カ月連続の大幅マイナスとなった。さらに鉱物性燃料については同14.2%増（前月：同30.4%増）と増勢が鈍化したものの、高水準を維持した。天然ガス（同26.5%減）がマイナスに転じたものの、原油（同34.1%増）と石油製品（同50.4%増）がそれぞれ好調だった。



インドネシアの18年6月の輸出額は前年同月比11.5%増（前月：同13.1%増）と低下した。輸出の伸び率は主力の輸出品であるパーム油やゴム製品が落ち込むなどから好調だった昨年と比べて鈍化してきたが、足元ではコモディティの価格上昇を背景に持ち直して高い伸びを維持している。一方、輸入額は前年同月比12.7%増（前月：同28.2%増）と増勢が大きく鈍化した結果、貿易収支は17.4億ドルの黒字と、前月から32.0億ドル改善した（図表9）。

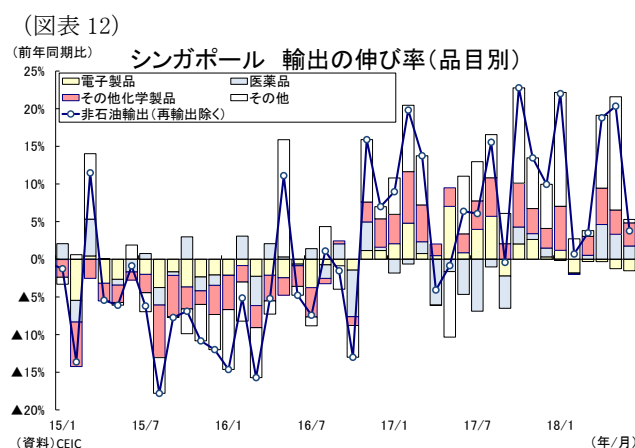
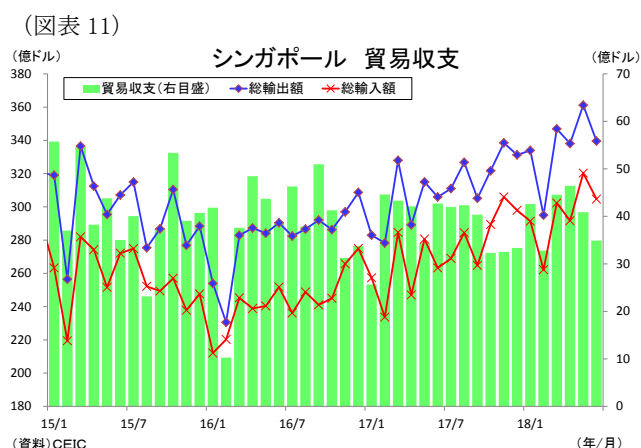
輸出を品目別に見ると、石油ガスこそ同34.8%増（前月：同27.0%増）と大きく上昇したが、全体の9割を占める非石油ガスは同8.6%増（前月：同11.7%増）とやや低下した。非石油ガスの内訳を見ると、まず輸出全体の7割を占める製造品が同0.5%増（前月：同9.3%増）と大きく鈍化した。製造品では、主力の動植物性油脂（同4.0%減）やゴム製品（同19.4%減）、機械類（同6.1%減）、



電気機械（同4.3%減）が落ち込んだほか、自動車（同1.4%増）も小幅の増加に止まった。また農産品が同25.7%減（前月：同1.8%減）と低下して大幅マイナスとなった。一方、鉱業品については同58.7%増（前月：同28.1%増）と上昇し、鉱石、スラグ及び灰を中心に高水準を記録した。

シンガポールの18年6月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比3.8%増（前月：同20.3%増）と大きく鈍化した。輸出は主力の電子製品が低調に推移しているものの、石油化学製品を中心に増加傾向を維持している。なお、総輸出額は前年同月比11.0%増（前月：同14.6%増）、総輸入額が同15.7%増（前月：同14.1%増）となり、それぞれ低下した。結果として、貿易収支は34.9億ドルの黒字と、前月から6.0億ドル減少した（図表11）。

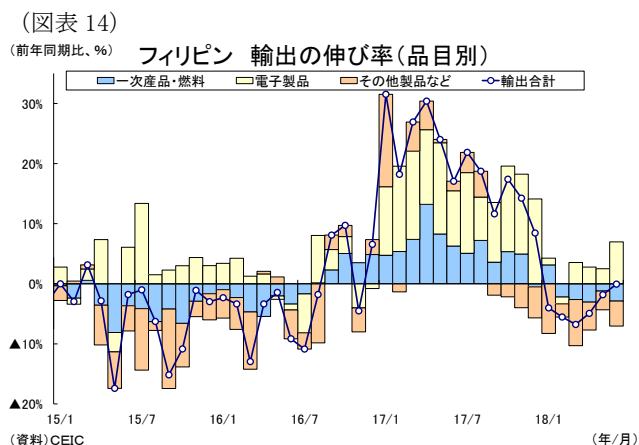
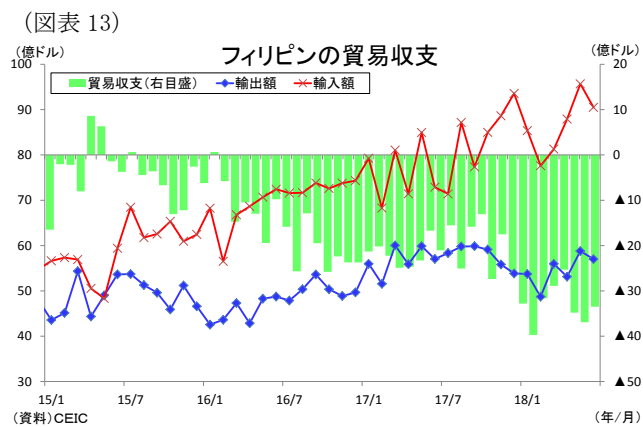
輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同5.5%減（前月：同4.0%減）と5カ月連続で低迷した（図表12）。電子製品の内訳を見ると、PC（同32.3%増）と通信機器（同5.7%増）がプラスに転じたものの、主力のIC（同17.5%減）とPC部品（同25.0%減）、ダイオード・トランジスタ（同3.4%減）が前月に続いてマイナスとなった。また電子製品と同じく全体の約3割を占める化学は同18.9%増（前月：同24.9%増）と低下しつつも高水準を維持した。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同22.3%増（前月：同37.7%増）、石油化学製品が同18.4%増（前月：同19.6%増）と、それぞれ好調だった。



フィリピンの18年6月の輸出額は前年同月比0.1%減と、前月（同1.8%減）に続いて減少した。輸出は主力の電子製品こそ増加傾向を維持しているものの、全体では昨年後半から伸び悩み、足元では6カ月連続マイナス圏で推移している。一方、輸入額は前年同月比24.2%増（前月：同12.6%増）と一段と上昇して3カ月連続の二桁増となった結果、貿易収支は33.5億ドルの赤字となり、前月から3.4億ドル赤字が縮小した（図表13）。こうした貿易赤字の拡大傾向は同国の通貨ペソに減価圧力がかかる一因となっている。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同13.5%増（前月：同4.9%増）と再び上昇した（図表14）。電子製品の内訳を見ると、計測制御機器（同0.3%増）が低調だったものの、主力の半導体デバイス（同9.2%増）と電子データ処理機（同12.2%増）が大きく上昇した。その他9品目は総じて増加した品目が多かった。ココナッツオイル（同15.7%増）や金属部品（同14.8%増）や電子機械・部品（同5.9%増）、その他製造品（同0.8%増）、機械・

輸送用機器（同0.1%増）が増加した一方、その他鉱物製品（同56.6%減）や化学（同34.3%減）、イグニッション・ワイヤーセット（同23.7%減）、バナナ（同2.4%減）が減少した。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。